

## みえの虹

三重県生活協同組合連合会

〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目135 ハイツフジタ1F

TEL 059-228-9913

FAX 059-228-9915

No.96

2013年1月

# ～2013年 新年のご挨拶～

## 「未来への希望をもって！」



新年、あけましておめでとうございます。

いま、大局的には、日本は政治でも、経済でも、あるいは社会全体にとっても、大変な時期に突入したと思われま。そこには、内憂外患という四文字熟語がぴったりハマります。この内憂外患とは、国語辞典によると、国内における心配事、そしてさらに外国と日本との関係のなかでの心配事を表す熟語と解説されています。またこの社会の構成員である国民にとっても、その生活自体が落ち着かない、展望がない、といった後ろ向きな精神体に引きずられる傾向があります。それらは個人の心配事として後ろに回されがちです。また社会的救済や救済が期待できない場面もあります。例えば、自殺をとってみてもそうです。自殺が一年間で3万人前後という国がどこにあるでしょうか。また日本は高度に発達した文明国家であり、年金や保険制度が充実している先進国家といえるのでしょうか。

私たちがめざす社会というのは、あらゆる格差のない、人間が生き、生活するためのほどこほどの社会ではないでしょうか。まるい円を描き、すべてがこの円のなかに収まるような、そしてもしトゲトゲがでてきたら、これを多くの人々が叩いて円の丸さに修復できるような社会の実現に私たちは「希望」を見いだすことはできないでしょうか。かつて歌手・岸洋子が爽やかに歌っていた「希望」に何かを託したいと思います。

「希望という名の あなたをたずねて 寒い夜更けに また汽車にのる 悲しみだけが あたしの道連れ  
となりの席に あなたがいれば 涙ぐむとき そのとき聞こえる 希望という名の あなたのあの唄  
そうよあなたに また逢うために あたしの旅は いままた始まる」

(『希望』作詞：藤田俊雄 作曲：いずみたく)

最後に、東京大学社会科学研究所の玄田教授のグループが、「希望」を単に精神的な言葉のままにとどめるのではなく、科学の領域にまで引き上げ、その体系化を目指す試みにチャレンジされています。その核として、次のような希望学を提唱されています。希望学とは、個人の内面の問題とみなされてきた「希望」を社会にかかわる問題として研究することを目的とする学際的な研究領域です。

今年の目標として、自覚的に少しでも自分の購買意識と生活意識のレベルを低くしてみることも一考かなと思います。その意味でも、生協の役割はなお大きいと言えます。

三重県生活協同組合連合会  
会長理事 上野 達彦

### 協同組合原則

1995年9月マンチェスター  
でのICA大会で採択

- 自発的で開かれた組合員制
- 組合員による民主的管理
- 組合員の経済的参加
- 自治と自立
- 教育、訓練および広報
- 協同組合間協同
- コミュニティへの関与

「国際協同組合年  
ファイナルイベント」  
が開催されました

12月19日（水）アスト津において、2012国際協同組合年三重県実行委員会主催のファイナルイベント「三重からつなげる協同の輪」を開催し、J A、漁協、労福協生協連などの関係者ら約150人が参加しました。

同委員会は昨年11月に県内の協同組合13団体で発足し、協同組合の価値や役割を広く県民に伝えるため活動してきました。

委員長でJ A三重中央会の奥野長衛会長からは「IYC（国際協同組合年）は2012年で終わりますが、この取り組みを進化させ、幅を広げていくことが重要です。そのためには、今後もイベントや講演活動



挨拶される三重県鈴木英敬知事

等の機会を設け、県民に理解を求めている」との挨拶がありました。

来賓で三重県の鈴木英敬知事からは「昨年の東日本大震災以降、協同のあり方や絆の在り方が重要視されてきました。このような協同組合の連携を一過性に終わらせず、今後も一致団結して取り組んでいただきたい」との期待の言葉を戴きました。

記念式典では、1年間の活動を報告し、実行委員会を代表して生協連の北村副会長より「三重県協同組合宣言」が読みあげられ拍手で確認されました。またJ A、漁協、労福協、生協連などで構成する「三重県協同組合連絡協議会」を設立し、今後も県内の協同組合間の連帯・連携を強化していくことを確認しました。

第2部では、三重大学内田淳正学長による「高齢化社会における人の絆」と題した記念講演もおこなわれました。



三重大学 内田淳正学長の記念講演

「三重県ユニセフ  
協会設立大会」  
が開催されました

12月4日（火）、津市のプラザ洞津において、「三重県ユニセフ協会設立大会」が開催され、全国で25番目となる協定地域組織として「三重県ユニセフ協会」が誕生しました。

設立大会では、三重県ユニセフ協会会長の内田淳正氏（三重大学学長）より、三重県ユニセフ協会の設立の意義と果たすべき役割について開会の挨拶がありました。

続いて、三重県ユニセフ協会顧問の鈴木英敬三重県知事（代理）と、前葉泰幸津市長（代理）から祝辞をいただきました。公益財団法人 日本ユニセフ協会専務理事の早水 研様から、三重県ユニセフ協会内田淳正会長へ「協力協定」・「協定証」が手渡され、祝う会では、名誉会長の武田美保氏（五輪メダリスト・三重大学特任教授）より、世界の子どもたちのために県協会の果たすべき役割についての決意表明がありました。その後DVD上映や全国のユニセフ協会から頂戴した祝辞・祝電メッセージ、三重県ユニセフ協会ボランティアスタッフの皆さんの紹介がありました。同時に展示品・活動の紹介や関連グッズの販売もおこなわれました。最後に「三重県ユニセフ協

会」を代表して理事の松井真理子氏（四日市大学総合政策部学部長）より、関係者の皆様への感謝の言葉とともに、今後の決意も込めた挨拶があり閉会しました。

三重県ユニセフ協会は三重県生活協同組合連合会内に事務所を設置し、三重県においてユニセフ支援の輪を広げるため、ハンド・イン・ハンド、ユニセフカード&ギフト頒布、ボランティア・スタッフ養成講座等、年間を通じた取り組みをおこなっていきます。現在、ユニセフ活動を支えてくださるボランティアを募集しています。詳細は県協会事務局までお問い合わせください。



三重県ユニセフ協会が設立されました

### 三重県農林水産部、 健康福祉部と懇談会を 開催しました

11月27日（火）三重県生活協同連事務所において、平成24年度の三重県食品監視指導計画と農畜産物安全確保監視指導計画の概要と検査の進捗状況、県内の放射性物質の検査状況などについて、三重県農林水産部農産物安全課と健康福祉部食品安全課より説明をいただき意見交流をおこないました。また食品表示に関する制度について見直しがおこなわれ「新食品表示法」（仮称）へ統合し移行していくことなどについても説明を受けました。今後も食の安全委員会では食品監視指導計画などへ意見を出していくことと懇談・意見交流をおこなっていくことを確認しました。



三重県農林水産部・健康福祉部との懇談のようす

### TPP交渉参加への 反対を呼びかけました

三重大学の学生、職員、関係者に向けて、TPP交渉の参加反対を訴えようと、12月4日津市の近鉄江戸橋駅付近で街頭宣伝活動を行いました。同取り組みに賛同するJAGグループやみえ漁連などの団体とも連携して共にTPP交渉参加阻止を呼びかけました。

街頭宣伝活動では、各団体の役員ら約20名が参加して、次世代を担う若者らを中心に、TPP交渉に参加した場合の影響をまとめたチラシ、ティッシュ、カイロを配り、農業をはじめ生活に大きな影響があることを呼び掛けました。14日にも津駅西口でも同様におこないました。



近鉄江戸橋駅付近にてTPP参加反対を呼びかけました

会員だより

みえ医療福祉生協・三重大学生協・コープみえ

「第7回健康づくりフェスタ」を開催しました

みえ医療福祉生協

12月9日(日)津市まん中交流館にて、「第7回健康づくりフェスタ」を開催しました。今回は「当生協の日頃の取り組みを生かそう」と、より多くの職員・組合員が企画に関わりました。認知症についてのパネルディスカッションでは、津生協病院の医師が座長、三重短期大学非常勤講師の中道和久氏、当院研修医、理学療法士、管理栄養士がパネラーをつとめました。認知症という病気との向き合い方、生活習慣病との関連、日常の運動や食生活の工夫などの話をもとに、会場からは積極的に質問が投げかけられていました。ステージ前は約100名の聴衆でいっぱいになり、関心の高さが伺えました。他にも、「医療福祉生協のいのちの章典」を考える討論会や、骨密度が高い人を当てるクイズ「ミズ骨コンテスト」など、健康に関する多くの行事で盛り上がりました。毎年人気の健康チェックやバザーにも大勢の列ができ、寒さを吹き飛ばす熱い一日となりました。



「生協フェア(11/19~12/8)」を開催しました

三重大学生協

みえ医療福祉生協の協力で行われた「健康ばお」では骨密度測定やアルコールパッチテストなど健康に関する計測や安全運転に関するドライブシュミレーションを行いました。お店ではデジタルカメラなどの豪華商品が当たる2000円クジ、焼き立てパン100円セール、食堂では麺類50円引き、ライス半額などのセールが行われました。500円のレシート1枚で抽選ができる生協フェア大抽選会では多くの組合員が抽選に参加しました。1等のディズニーリゾートツアー・ペアチケットを2組の組合員が見事引当ました。この生協フェアの最後を飾るイベントとして「第6回三重大学駅伝大会」が行われ、64チーム約470人の中学生から大学のクラブ・サークルの仲間、大学の教職員たちが一本のタスキをつなぎながら三重大学構内を駆け抜けました。



「2012ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」に取り組みました

コープみえ

今年も県内の8会場(コープみやがわ店、アピタ松阪三雲店、アピタ四日市店、三重県総合文化センター、伊賀市場公民館、コープまつさか店、アピタ桑名店、道の駅まんぼう)において、2012ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金活動をおこないました。三重県ユニセフ協会と組合員、職員、ボランティアの皆さんなど参加した人数は延べ76名、集まった募金は、総額162,417円でした。1月中旬に日本ユニセフ協会へ送金されます。



三重県からのお知らせ

食の安全 安心ミニ情報

一汁三菜ってなあに？

昔ながらの日本型の食事は、一汁三菜が基本でした。一汁三菜とは、ごはん(汁物、3種類のおかず(主菜1品 副菜2品))のことです。「主食・主菜・副菜・汁物」をそろえ、食事のバランスをあなたも見直してみませんか。



理事会だより

第4回理事会

2012年12月5日 15:00~17:00 三重県生協連事務所  
出席理事8名、出席監事2名

報告事項

1. 機関会議の報告
2. 活動の報告
3. 日本生協連、県、諸団体等の会議報告
4. 第35回(2012年)東海北陸生協行政合同会議報告

協議決定事項

1. 2012年生協大会(案)について
2. ホームページ運用管理規程(案)について
3. 会員生協の平和の取り組みに対する県連補助基準(案)について
4. 第27回高齢者大会・三重県実行委員会への参加のお願いについて
5. 2012年度下期活動(案)について